【小学校･中学校･義務教育学校用】
令和３年度学校評価 計画

学校名	鳥栖市立若葉小学校

1　前年度 評価結果の概要	・いじめの早期発見，早期対応，再発防止に心がけ，児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。また，積極的に児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行い，学校・家庭・地域と連携して，児童の自己肯定感を高めていきたい。 ・児童1人に1台タブレット型端末が導入されたので，各教科の中でＩＣＴを利活用した授業を推進していきたい。調べ学習だけでなく、プログラミング教育等も進め，児童の創造性を高めるような教育を目指していく。 ・特別支援学級は10クラスで在籍児童は50人となる。通常学級にも配慮を要する児童が多くいるため、ＵＤ教育の視点を大切にした授業を実現していく。そのために，校内研究をはじめ外部講師による職員研修を計画し，研修を深める。
2　学校教育目標	「美しい心をもち　自分で考え　やりぬく子」の育成 ～　元気いっぱい　笑顔かがやく　若葉っ子　～
3　本年度の重点目標	①　若葉授業（共通の指導・実践）と家庭学習習慣の定着による確かな学びの積み上げ ②　心の教育（道徳，人権・同和教育，ＵＤ教育，学級活動）による自己有用感の高まりと豊かな心の育成 ③　出番・役割の設定→承認・称賛と共通の指導による規範意識・判断力，主体的な態度の育成 ④　新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた新しい学校での生活様式の定着

4　重点取組内容・成果指標

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして，全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・学習スタイルとしての学習の約束を教室に掲示し学習の構えとともに，繰り返し指導する。 ・主体的･多面的に学ぶ力を伸ばすために、授業の中で児童相互に主体的対話的に関わりあう「友達タイム」を活用する。 ・スキルタイムでは，基礎･基本を中心に適時各学年で吟味し，高学年では活用力に関わる問題にも取り組ませる。 ・校内研究でユニバーサルデザインの視点に基づいた学習環境･授業づくりを目指す。
	〇タブレット端末等を使った授業実践による学力の定着	〇ICT機器を利用した効果的な授業を行っている教師90%以上を目指す。	・電子黒板，デジタル教科書，タブレット端末等を授業で効果的に活用した授業づくりに取り組み，研究授業等で公開していく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇特別の教科道徳の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 〇相手が嬉しい，心地良いと感じる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。	・道徳の授業の終末に，これまでの自分の生活を見直し，これからの実践につなげられるよう，振り返りを行う。 ・ふれあい道徳を推進し，授業公開する。学級通信などで家庭への啓発を図る。 ・「ほめほめカード」」や「がんばったねカード」に自他の良さを見つけ承認，称賛する。学校内だけでなく，地域や家庭にも参加してもらう。 ・「ふあふあ言葉」について，道徳の授業や学級活動などで取り上げ意識付けを行う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇いじめは絶対に許さないという児童の意識，いじめが起こりにくい集団づくりに取り組み，教職員アンケート，保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であてはまると答えた割合が90%以上。	・Q-Uを年2回実施し，その結果をよりよい集団づくりを意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ･いのちを考える日」に，児童は毎月，保護者は学期毎にアンケートを行い，個人の悩みやいじめの早期発見･対応を学校全体で取り組む。
	◎志を高める教育	〇「学校目標」達成に向けて，自分の考えをもち，実践･振り返りを行っていると答えた児童の割合が80%以上。 〇自分のめあてを設定し，意識して努力しようとする児童を80%以上にする。	・小中一貫で統一した「マナー教室」の中で全児童に学校目標達成に向けた自分の考えを発表させる。 ・各クラス学級活動(話合い活動)の中で実践･振り返りを行い，行動を高めていく。 ・キャリアパスポートを活用して個人のめあてを設定し，めあての達成に向けて，実践内容を学期毎に見直す。
●健康･体つくり	〇運動習慣の改善や定着化	〇授業以外で運動やスポーツを行う時間を増やすために，休み時間等で外遊びをする児童を85%以上にする。	・体育委員会で「クラスマッチ」を企画することで，呼びかけの機会を増やし，より参加人数を増やす。 ・学級で「みんなで遊ぶ日」を設定したり，晴れの日に外遊びの声かけや放送を行ったりする。 ・リレーカーニバルや水泳大会・なわとび大会などの体育的行事を行い，体力の向上を図る。 ・各クラススポーツチャレンジに積極的に参加できるような場の設定をする。

	○望ましい生活習慣の形成	○自分から進んであいさつをしている児童の割合80%以上を目指す。	・1年間の生活目標を「あいさつにあふれ，落ち着きのある学校にしよう」とし，「合言葉」の「あかるく・いつでも・さきに・つづけて」の周知・徹底を図る。 ・あいさつについて学期ごとの具体的な目標を示す。 ・児童会・PTAが連携した朝のあいさつ運動を展開する。 ・挨拶チェックカードを作り，定着を図る。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日，特別校時とし，昨年度より下校時刻を30分早め，定時退勤時刻を先に決めて，それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。 ・8月の第2週を学校閉庁日とする。
	○業務の改善，軽減化 ○年次休暇取得の啓発	○いらないと思われる話し合いや会議を減らし，超過勤務時間が各月平均30時以内を目指す。 ○各職員の年休取得日数が昨年度＋3を目指す。	・勤務の効率化を行うために，職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。 ・仕事の負担の隔たりがないよう，均等に業務の割り当てを行うと共に，一人が孤立しないように，各プロジェクトチームで組織的に動く。 ・休業中の年休取得日数を具体的に示す。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80％以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80％以上	・毎週計画的に教科「日本語」の学習を実践する。 ・保護者や地域の方々の理解を図るために，全学級で毎年1回以上，授業参観等を実践する。 ・地域人材を積極的に活用する。
○主体的な態度の育成	○学級活動や学校行事等子どもの出番・役割の設定 ○学級会を主軸に置く特別活動の取組	○学校行事の準備や計画，進行などを児童にまかせ，子どもの出番・役割を設定し，主体的な取り組みをしているという児童を90%以上にする。	・代表委員会を通して児童の思いを反映させた取り組みを行う。 ・集会や児童朝会，運動会の進行や準備などで子どもの出番・役割を設定し，主体的に活動に取り組ませる。 ・縦割り班での縦割り活動やあいさつ運動を年間を通して行い，児童に計画・立案・運営させる。 ・常に考える教育を推進し，小集団での話し合い活動を行う。
○自己有用感の向上	○学校・家庭・地域一体となって承認・賞賛する開発的な関わり	○自分や友だちのよさに目をむけ，承認・称賛する取り組みを通して自己肯定感を高めていき，保護者アンケートで，承認・称賛することで温かな環境づくりに取り組んでいるという割合を90%以上にする。	・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に学校・地域・家庭で取り組み，本校2階のきらきら通りに掲示すると共に温かな環境づくりに努める。教師の積極的なカードの取組を促す。 ・PTAとの連携を図り，心豊かになる教育講演会を実施する。 ・全学級，ショートで友だちの承認・称賛のコーナーを設け，取り組む。

●・・・県共通　★・・・鳥栖市共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・ ・ ・